2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標

ハイチ西県のパルム地域周辺住民の安全な水へのアクセスや衛生環境が向上され、水管理委員会の設立や能力開発により、給水施設の維持管理が行われること。

(2) 事業内容

本事業では、(ア) 安全な水へのアクセス、(イ) 水管理委員会の設置及びその強化、(ウ) 下痢やコレラの予防のための衛生促進、の3つの水衛生ニーズに対応した、(ア) キオスク型給水施設9棟(塩素による水の浄化処理設備含む)、貯水槽1棟の建設、約6kmに及ぶ既存水路の改修、(イ) 18か所での水管理委員会の結成・強化、(ウ) 衛生促進に取り組んでいる。

(ア) キオスク型給水施設9棟、貯水槽1棟、既存水路の改修

- 4棟のキオスク型給水施設、塩素浄化施設の建設が完了し、現在5・6棟目のキオスクが建設中である。大きな水漏れが発生していたパイプの修復など既存水路の改修にも着手し、水路の改修は引き続き行っていく。世界水の日に因んだイベントを3月24日に行い、その際に完成した4棟のキオスクを正式に住民に公開する予定である。

(イ) 水管理委員会の結成・強化

(1) マシュー (Mathieu) にて水管理委員会の結成がされ、住民総会にて水管理委員会 (CAEPA) の紹介、今事業の詳細、DINEPA の規定等が発表され、正式に DINEPA の監督下に入った。

(2) 過去の水管理委員会の強化

前事業で水管理委員会を結成・再結成した17のコミュニティでは、料金徴収や登録世帯数のフォローアップを開始した。複数のコミュニティにて住民総会を行い、地域住民への今事業の説明や新たな DINEPA の規定などを発表した。前事業ですべてのプロセスが完了しなかった La Colline Bas/Centre でも住民総会が行われ、DINEPA の監督下に入る最終調整が行われ、料金徴収も開始した。今事業にて改めて活動を再開することとなった Duplessis では、水管理委員会の活動が予定通り再開され、他 NGO や DINEPA との調整が済み次第、トレーニングを開始する事となった。Bois Cota Deslande では、これまでに徴収した利用料でポンプの修理を行うことができた。キオスク型給水所がある Santo では、順調に利用料に基づくシステムが導入されており、予定通り利用料の一部がキオスク管理人の収入源となっている。Jeanty では、4月から利用料システムが導入される予定である。Lafferonay では、給水施設の利用開始後、水管理委員会を含む地域住民が主導となり水路の工事を決定した為、キオスクへの水の提供が停止している。この問題を解決する為、地域住民と DINEPA を含め、解決策を模索している。

(ウ) 衛生促進

	<p>(1) Mathieuにて事前 KAP 調査を実施し、水管理委員会の結成も完了したため、衛生促進活動を今後開始する。9 棟のキオスク建設位置が決定し、それに応じて各キオスク周辺住民のボランティア選定も行なった。当初 53 名のボランティアが選定されたが、現状 21 名のボランティアにとどまっている。引続き、ボランティアの選定を継続していく。3 月 24 日には、キオスクの公開と同時に大規模な衛生促進活動を含めたイベントを行う予定である。</p> <p>(2) 既存ボランティアチームの再結成ができていくつかのコミュニティでは、ボランティアと協力し 3 月 23 日に世界水の日に因んだイベントが予定されている。(Haut Michel 1~3, Santo, Haut Guerin) イベントの中心となるのは、水の保護・浄化、節水である。また、前事業から引き続きサポートを行なっている複数のコミュニティにおいて既存ボランティアを維持することの難しさに直面しており、ボランティアのモチベーションを維持する方法や長期的ボランティア活用計画の見直しを検討している。衛生促進活動に関しては、前事業の事後 KAP 調査で明らかとなった住民の手洗いや水因性感染症予防に重点を置いて実施する。</p>
(3) 達成された効果	<p>(ア) 給水施設（塩素による水の浄化処理設備含む）の建設 ＜水へのアクセスと給水量について＞</p> <p>① 家庭調査による水の使用と消費は、3 月 24 日の給水施設引き渡し式が終わり次第、調査を開始する。</p> <p>② 給水所の利用世帯カバー率については、世帯数を考慮し、各戸の GPS コードを基にした調査は難しいと考える。このため、Mathieu の水路に建設される 9 棟のキオスク型給水所が 1 km 以内の間隔で水路上に建てられるようキオスク設置位置を決定した。</p> <p>③ 水汲みを待つ時間は、給水所での調査や事後 KAP 調査により成果を確認する。</p> <p>＜水質＞</p> <p>① 水質検査結果や②塩素による浄化処理後の塩素残存量はそれぞれ給水施設公開前に調査を行う。</p> <p>(イ) 水管理委員会の結成・強化</p> <p>① Mathieu での水管理委員会のメンバー選出が終わり、結成された。今後は委員会のトレーニングに重点が置かれる。</p> <p>② 井戸を利用しているコミュニティでは、料金徴収や利用登録のフォローアップを行い、住民総会では今事業の説明、DINEPA の規定などが発表された。</p> <p>③ キオスク型給水施設については、適切に利用料徴収システムが実施されている事業地から月次のキャッシュフローを水管理委員会と確認しており、引き続きサポートを行う。</p> <p>(ウ) 衛生促進</p>

	<p>① Mathieuでは、これまでに21名の衛生ボランティアを確保したが、引き続きボランティアの確保が必要である。トレーニングも順次進めていく予定である。前事業から継続して活動を行なっているコミュニティでは、既存ボランティアを維持するのが難しく、どのようにして長期的にボランティアを確保できるかが課題となっている。</p> <p>② 事前 KAP 調査によると、88.1%の人は井戸（ハンドポンプ）と答えた。この場合無料で水にアクセスできるが、安全な水ではないため、94.8%がアクアタブ等で水の浄化をしていると答えた。今事業によりキオスク型給水所を使用する住民が増えることで、適切に浄化された安全な水へのアクセスと、その重要性を認識し行動を起こすことが期待される。</p> <p>③ 給水所の利用開始後、事後 KAP 調査や給水所での調査を通して給水施設の利用状況を確認する。</p>
(4) 今後の見通し	大雨などの天候の影響や、政府に対するデモなどで事業地へのアクセスや活動が難しくなることがなければ、予定通り事業期間内に完了する。